

令和3年度 岐阜市基幹相談支援サテライト活動報告

■目的：地域の相談支援体制を強化する。

相談支援専門員の資質向上を図りながら、個別ケースを通して地域の課題を抽出していく。
指定特定相談支援事業所の相談支援専門員と連携することにより、地域福祉を動かすきっかけとする。

■方法：3つの仕組み（①基幹相談支援ミーティング・②基幹相談支援 GSV・③基幹がくる）と④相談支援専門員を対象とする学習会（障がい福祉課主催）によって、地域の相談支援体制の強化を図る。

①基幹相談支援ミーティング

- ・相談支援専門員の情報交換の場や事例検討の場
- ・2ヶ月に1回 主に Zoom にて開催
- ・市内の相談支援事業所または地区の相談支援事業所を対象

開催日	★テーマと☆実施報告	参加者
R3.4.22	<p>★基幹相談支援サテライトについて（令和3年度の展開） ☆相談支援専門員に対し、基幹相談支援サテライトの活動内容を報告し、意見交換した。</p>	相談支援専門員 34名
R3.6.22	<p>★なんでも情報交換会 ☆「普段相談し辛いこと」や「今更聞けないこと」をざっくばらんに意見交換した。</p>	相談支援専門員 30名
R3.8.17	<p>★事例検討「退院後の支援体制について」 ☆グループに分かれて、どのような支援ができるのか話し合った。</p>	相談支援専門員 20名
R3.10.19	<p>★バイステックの7原則について ☆相談支援専門員としての基本的な考え方の振り返りを行った。相談を受ける際の心構え等を再確認した。</p>	相談支援専門員 29名
R3.12.14	<p>★事例検討「相談支援専門員としての経験年数から見える着眼点の違い」 ☆初任・中堅・ベテランのグループに分かれて事例検討を行い、経験年数の違いからくるケースの捉え方の違いを意見交換した。</p>	相談支援専門員 27名
R4.2.8	<p>★基幹相談支援サテライトの活動報告・次年度への意見交換 ☆令和3年度 基幹相談支援サテライトの活動内容を報告するとともに次年度以降も積極的に基幹相談支援サテライトがバックアップしながら岐阜市の相談支援を盛り上げていきたい旨を確認した。</p>	相談支援専門員 11名

②基幹相談支援 GSV

- ・基幹相談支援 GSV（グループスーパービジョン）とは、相談支援専門員（スーパーバイザー）が担当しているケースについて、基幹相談支援サテライトの相談支援専門員 4 人（スーパーバイザー）と意見交換を行い、相談支援専門員（スーパーバイザー）の資質向上を図る。
- ・ケースに応じて他の相談支援専門員もスーパーバイザーになってもらう。
- ・相談支援専門員（スーパーバイザー）の希望があれば、継続して定期的に GSV を行う。
- ・1 ヶ月に 1 回 金曜 13:30～15:00 主に Zoom にて開催

開催日	テーマ	相談支援 経験年数
R3.5.28	26 歳・療育手帳 B2・一人暮らしの女性のケースに対する相談支援専門員としての関わり方について。	4 年目
R3.6.25	57 歳・男性・就労継続支援 A 型を利用している統合失調症のケースに対し、家族からの暴言等より、就労継続支援 A 型を休むことが多くなったことによる今後の支援について。	3 年目
R3.7.30	46 歳・男性・就労継続支援 B 型を利用するも継続利用ができないケース。状態により暴言等があり、対応に困っている。	6 年目
R3.8.20	42 歳・男性・ひきこもりがちになっている注察妄想等があるケース。不衛生な環境で生活しているが、自室にヘルパーが入室することを拒んでおり、どう支援したらよいか。	3 年目
R3.9.24	医療行為のある重心・1 歳児のケースに対する支援や、家族・支援者との関わり方について。	5 年目
R3.10.24	両親からの虐待を受けた娘が、祖母と養子縁組したケースについて。	2 年目
R3.11.19	38 歳女性・精神障がい・単身生活のケース。糖尿病で血糖コントロールのため、最近内科に入院。食事を 1 日 2 回にする等の節約をしている反面、服や新しいスマホにお金を遣ってしまい、フードバンクの利用を希望する。金銭管理がうまくできていない。会話への反応が乏しく、どうコミュニケーションをとってあげればいいのか、どうしたらもっと本人を理解できるかということで困っている。	4 年目
R3.12.17	20 代・男性・自閉症のケース。精神面が安定せず、嘔吐・過食・多弁・多動・依存などが強くみられる。特に母に対しての依存が強いが、母は協力的であるものの本人の症状、病状にあまり理解がない。	5 年目
R4.1.21	利用者自身は、病気のことを知らないターミナルケアのケース。支援者は、「いつかくる死」と「計画相談を遂行する」という両者の中で支援に対する悩みを感じている。	6 年目
R4.2.18	6 歳・男児・療育が必要との医師の意見書のみのケース。母子家庭で母はフィリピン人。障がい受容ができておらず、支援には拒否的。どう支援したらよいか。	2 年目

③「基幹がくる」

- ・基幹相談支援サテライトが相談支援事業所へ出向き、悩み等の相談を受ける。
- ・随時

実施日	実施報告
R3.5.11	基幹相談支援サテライトうかい 坂上が訪問。児童に関する支援や、放課後等デイサービス以外の障害福祉サービスの少なさ等の問題を聞き取った。
R3.6.1	基幹相談支援サテライトうかい 坂上が訪問。医療的ケア児への緊急時の短期入所について相談を受ける。
R3.6.4	基幹相談支援サテライトふなぶせ南 水口が訪問。担当しているケースに対しての助言がほしいとのことで対応。他に計画相談の現状や事業所の体制について話を聞いた。

④相談支援専門員を対象とする学習会

- ・地域の相談支援体制の強化の取組を基幹相談支援業務に位置付け、研修会や日常的な事例検討会を開催することにより、相談支援専門員の人材育成の支援に取り組む。
- ・年6回程度

開催日	★テーマと☆実施報告	参加者
R3.7.16	★制度について ☆福祉に関する制度について市の担当課から説明。	相談支援専門員 19名
R3.9.16	★地域移行について ☆地域移行について説明後、独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園が作成した Q&A や事例を用いて、具体的なケースとして紹介した。	相談支援専門員 26名
R3.11.18	★障害福祉サービス提供の基本的なルールについて ☆クイズ方式で基本的なルール等について理解度を深めた。	相談支援専門員 25名
R4.1.14	★介護保険について(介護保険サービスや連携) ☆岐阜市機能強化型地域包括支援センター北ブロック 露武尊氏、中ブロック 中谷氏、南ブロック 丸山氏より介護保険制度の説明と相談支援専門員と連携した事例を紹介した後、3 グループに分かれて介護との連携や制度理解をテーマに話し合った。	相談支援専門員 24名
R4.3.17 予定	★訪問看護と訪問リハビリについて	—

⑤基幹相談支援サテライトの活動 <イメージ図>

